

# 日本の神話伝説についての意味づけの心理学的分析

——特に沖縄住民を対象としたSD法を中心に——

琉球大学

文 沢 義 永

従来、日本の神話伝承についての研究といえば、津田左右吉(1916; 1923; 1946)、高木敏雄(1925)、加藤仁平(1928)、大西貞治(1931)、中村徳五郎(1934)、松本信広(1936)、肥後和男(1938; 1966; 1968)、和辻哲郎(1951; 1952)、松村武雄(1954)、秋本吉郎(1958)、井上光貞(1960; 1965)などの文献がよく知られている。これらの研究傾向には文献学的立場や倫理思想史的観点などがあるけれども、心理学的立場から重要なことは、神話伝説そのものの客体的特性の探究よりも、それらに対する現代日本人の主体的な受けとめ方、すなわち日本人の歴史的生成過程についての認識体系への科学的探究であろうと思われる。

本研究は、このような現代心理学的な考え方から発した1つの試みである。

## 神話研究の方法論と本研究の目的

日本神話の内容やその意義については、神話学、宗教学、文化人類学、心理学、社会学等の学問分野で論究されるといわれており、そのアプローチも文献の分析や批判によるもの、文化人類学的方法、統計的な研究法、心理学的な研究法などが考えられている(西村, 1927)。

文化人類学的方法には、考古学的なもの、工芸学的なもの、社会学的なもの、言語学的なもの、土俗学的なものなどが含まれ、特に実証性や実在性を強調する人々の多くがこの方法をとる。

統計的研究法は、文献に現われた諸要素や諸事象の出現頻度に大きな関心を向けるが、西村によれば、今までに研究されたものには次のような例がある。

- (i) 白鳥処女説話で結婚した女性の種類
- (ii) “古事記”上巻における語彙調査
- (iii) 神話に現われている動物

心理学的研究法というのは、普通、意識的な面と無意識的な面の双方を含めた心的現象を取り扱うことであり、また信仰と慣習との比較研究によって主に次の2つ

の問題が指向せられる(西村)。

(i) 歴史の問題: 思想の推移、環境と人類(または民族)との長期間にわたる葛藤、その所産である制度や慣習の歴史

(ii) 土俗学上の問題: 人類(または民族)が物質と社会の両環境と闘いつつある間に起こった心理的動機の性質、素朴な生活様式に採用せられた心的方向を変化・発達せしめて、人類社会または民族社会の複雑化に対抗することができるようにさせた心理的過程。そこで起きる動機と過程とについて推察し、社会的相互作用及びその所産についても考察がなされる。時には神話に現われる象徴主義 symbolizm の解釈もなされる。

これらの研究方法全体で共通的に用心しなければならないことは、西郷信綱が指摘するように“古事記の世界”に想像的にでも入り込むことができないという困難点と限界であろう。また研究の手続きも重要であるが、その結果についての考察の仕方が津田左右吉の轍を踏むことになりかねない。われわれの事物の認知・理解・解釈はその個人の先行経験や現在の態度や symbolization などの程度によって潜勢的に誘導されることがあるからである。

本研究では、日本の神話伝承のもつ象徴主義や説話内容について現代人の受けとめ方を分析する方向をとる。すなわち日本の神話伝承に対する理解度・受容度・情動的関与度を知らうと試みるのである。日本古来の伝統的な心理特性の構造を比較的新しい測定技法で解明しようとする試みとして、吉田正昭を中心とした研究グループは、“いき”、“恩”、“恥”、“権威”、“義理”、“礼儀”などの構造を分析している。それらの一連の研究から大きな示唆を受けて、本研究では、日本民族の精神生活と深いつながりのあるこの文化遺産(神話伝承)に対して現代人が抱いている意味づけまたはイメージを、自由記述式の質問紙法および吉田や Osgood らの測定技法によって探索しようとする。

また前述したように、神話伝説は倫理思想的にも研究されるので、倫理学と密接な関係のある道德教育の問題と基本的なつながりを有する。沢田慶輔を中心とする研究グループの“道德性”や“人間愛”に関する研究(1966; 1967; 1967; 1969)とは、手法や手続きの点で相違があるにしても、本研究そのものも潜在的な面では相通するものがあると筆者は考えている。

### 第 1 調 査

和辻哲郎が論述するように、日本の神話伝説における神の意義や神話の意味する倫理道德には、通俗には考えられないほどの深淵なものがあるが、それらについて現代の青少年はどのように感じているか、どのように受けとめているか、そしてどの程度の知識をもっているかを調査してみた。この調査の対象は、沖縄の小学校6年生男子41名、女子45名、中学校2年生男子45名、女子48名で、合計して179名である。調査結果は次の通り。

**第1問** “神話”ということばを聞いた時、あなたは何を思い出しますか。

この質問に対する回答には多種多様なものが現われたが、意味が不明瞭なものを除外して、整理し類別してみると次の如くになった。これらによって、“神話”によって連想されるもの、それに対するイメージの概要を知ることができる(数字は人数を示す)。

	小6男	小6女	中2男	中2女	合計	%
神様(一般的に)	9	13	9	16	47	28.8
物語の主人公	8	11	5	4	28	17.1
物語そのもの	10	7	5	4	26	16.0
地理的なもの	11	7	1	3	22	13.5
話してくれた人	9	18			27	16.6
図 書	4	3			7	4.3
天国・地獄	2	3			5	3.1
動 物	1				1	0.6

これらの他に、星座、歴史上の人物、沖縄の民話、童話などが連想されていた。形容語、感情語、動作語などは現われなかったことが注目される。

**第2問** あなたはどんな神話を知っていますか。(もし知っていたら、かんたんに“……の話”と書いて下さい)。

一般に神話といえば、日本神話の他にギリシャ神話、北欧神話、中国神話などがあるが、それら全般を通しての神話に関する知識量を見ようとする質問であるが、これに対する回答の結果は次の通りである(数字は人数)。

まず、小学生では1件ないし2件あげているのに対し

	小6男	小6女	中2男	中2女	合計
国造り			2	4	6
天照大神			6	4	10
天の岩戸			3	4	7
因幡の白兔			23	28	51
ヤマタノオロチ	5	5	15	11	36
海幸彦・山幸彦	1	2	8	16	27
日本武尊			1	1	2
沖縄の神話	7	1	2	3	13
ギリシャ神話	1	2	8	17	28
羽衣	13	15	6	12	46
浦島太郎	8	10		2	20
一寸法師	4	3			7
桃太郎	5	7			12
沖縄の民話	9	9		1	19
キリスト	5	10	2		17
聖書の話	1	3	4	8	16
合 計	59	67	80	111	317

て、中学生では2件ないし3件と多くなっているのが注目された。小学生では神話といえないものが多く見られるのに、中学生では小学生より多くの日本神話をあげている。“因幡の白兔”の話だけは中学生の約半数が知っていることになる。“羽衣”、“浦島太郎”、“一寸法師”、“桃太郎”などの童話をあげているところを見ると(特に小学生の場合)、神話とはどんなものか、神話と童話とはどう違うかを、漠然とでも知らない者が多いようである。日本神話やギリシャ神話を知っていると答えていても、ただ断片的に知っているのか、幾らか詳しく知っているのかは、この質問法では明らかでないのは当然である。

別の調査で中学3年生2学級を対象にして、“どんな神話を知っているか”を自由記述させた。それによると、日本神話136、ギリシャ神話8、琉球の神話・伝説23があげられ、日本神話の中では、出雲の物語79、天照大神27、海幸・山幸24、日本武尊6の順であった。その他に漠然としたもの、不明瞭なもの、無答者がかなりいた。

**第3問** そのような物語を誰(どこ)から得ましたか。

小学生や中学生が知っている物語についての情報源を尋ねる質問である。これに対する彼らの回答結果は次の通りである(数字は人数)。

	小6男	小6女	中2男	中2女	合計	%
祖父・祖母	7	10	2	3	22	4.9

父・母	16	19	7	6	48	10.7
教師	13	11	14	18	56	12.4
教科書	10	10	15	20	55	12.2
図書	26	33	28	38	125	27.7
マンガ	11	4	11	11	37	8.2
映画・テレビ	20	13	19	14	66	14.6
その他	10	14	4	2	30	6.6
無答	1	3	5	3	12	2.6

ここで注意しなければならないことは、情報の内容が第2問の回答に見られるように、神話といえないものを含んでいることである。現行の教科書には神話を取り入れられていないのに、12.2%の者がこれをあげている。祖父母や父母から聞いた物語も単なる民話や童話であったかも知れない。

**第4問** そのような物語を聞いたり読んだりした時、どんな感じがしましたか。

この質問は、一応神話物語を前提として、それに対する情緒的反応の方向・種類を尋ねようとするものであるが、結果的には第3問の場合と同じく、民話・童話その他の物語に対する反応をも含んでいると考えねばならない。結果は次の通り（数字は人数）。

	小6男	小6女	中2男	中2女	合計
疑惑・不思議	14	15	10	12	51
おもしろい	9	7	3	10	29
感動	4	3	3	3	13
かわいそう	2	11	1	2	16
強い・勇ましい	5	5	1		11
えらい		9	2		11
幼稚・ばかばかしい		2	3	1	6
こわい	3	2			5
気持ちが静まる	1			1	2

ここで問題になるのは、回答者が読んだり聞いたりしたことのある物語の種類と内容、および物語る人の雰囲気作りに差異があったかも知れないことである。また、前述したような神話の深い意味に関連する語句は出て来なかった。

**第5問** あなたが物語の本を読みたいとするならば、どんなものを強く求めますか。次の中から5つだけ選び出し、読みたい順に番号をつけなさい。

この質問は、広い読書領域の中で神話・伝説に向けられる興味の傾向を知ろうとするものである。興味傾向の強い方から5→1点、選ばれないものを0点として、点数化してみると、各領域の平均得点は次の通りになった。

	小6男	小6女	中2男	中2女
偉人伝	1.05	0.91	0.89	0.90
空想的な事件	2.20	3.33	2.48	2.35
動物物語	2.70	1.91	2.16	1.15
旅行もの	0.40	0.71	0.54	0.65
戦争もの	2.27	0.71	1.54	0.43
<b>神話・伝説</b>	<b>1.27</b>	<b>2.87</b>	<b>0.91</b>	<b>1.57</b>
歴史上の人物・事件	1.27	1.73	1.17	1.04
探偵小説	1.05	1.47	1.71	3.22
科学冒険小説	1.71	0.78	2.31	1.26
友情・恋愛小説	0.56	1.02	0.48	2.33

この数字は、選択された強度を示すものであるから、神話・伝説に向けられる興味傾向は、小学校6年男子で5位、同女子で2位、中学校男子で7位、同女子で4位になっており、他の領域との間隔にはそれぞれ相違がある。小学生でも中学生でも、女子の方が男子よりも神話・伝説の物語を強く求める傾向がある。小学校男子では、“歴史上の人物・事件”や“偉人伝”、“探偵小説”に近く、中学校男子では同じく前二者に近く、中学校女子では“科学冒険小説”に近く選択されている。

この第1調査から得られた結果をまとめてみると、次の通りである。

(イ) “神話”ということばから連想されるものは、物語そのものに直接・間接に関連ある事柄が多く現われ、形容的、情動的なものは出てこない。これは感動性の弱さともいえる。

(ロ) 全般的にみて、神話物語についての知識は貧弱であり、民話や童話などと混同していることが多いが目立っている。

(ハ) 神話を含む多くの物語についての情報源は、課外読書、映画やテレビ、教師、教科書、父母の順になっている。

(ニ) 神話物語を現実性や合理性の立場から受け取ろうとする傾向が強く見られる。

(ホ) 読書興味の方向から見ると、神話・伝説に対して小学校女子は関心が高い方であるが、小学校男子および中学校男女ではおおむね中位程度である。

## 第2調査

### 1. 研究方法

前述してきた基礎的研究および第1調査の結果を念頭において、この第2調査では、比較的新しい Semantic Differential 法を用いることにした。

(1) SD尺度の作成 和辻、津田、肥後その他の著書の中から、日本の神話物語の特徴・性格・意義などにつ

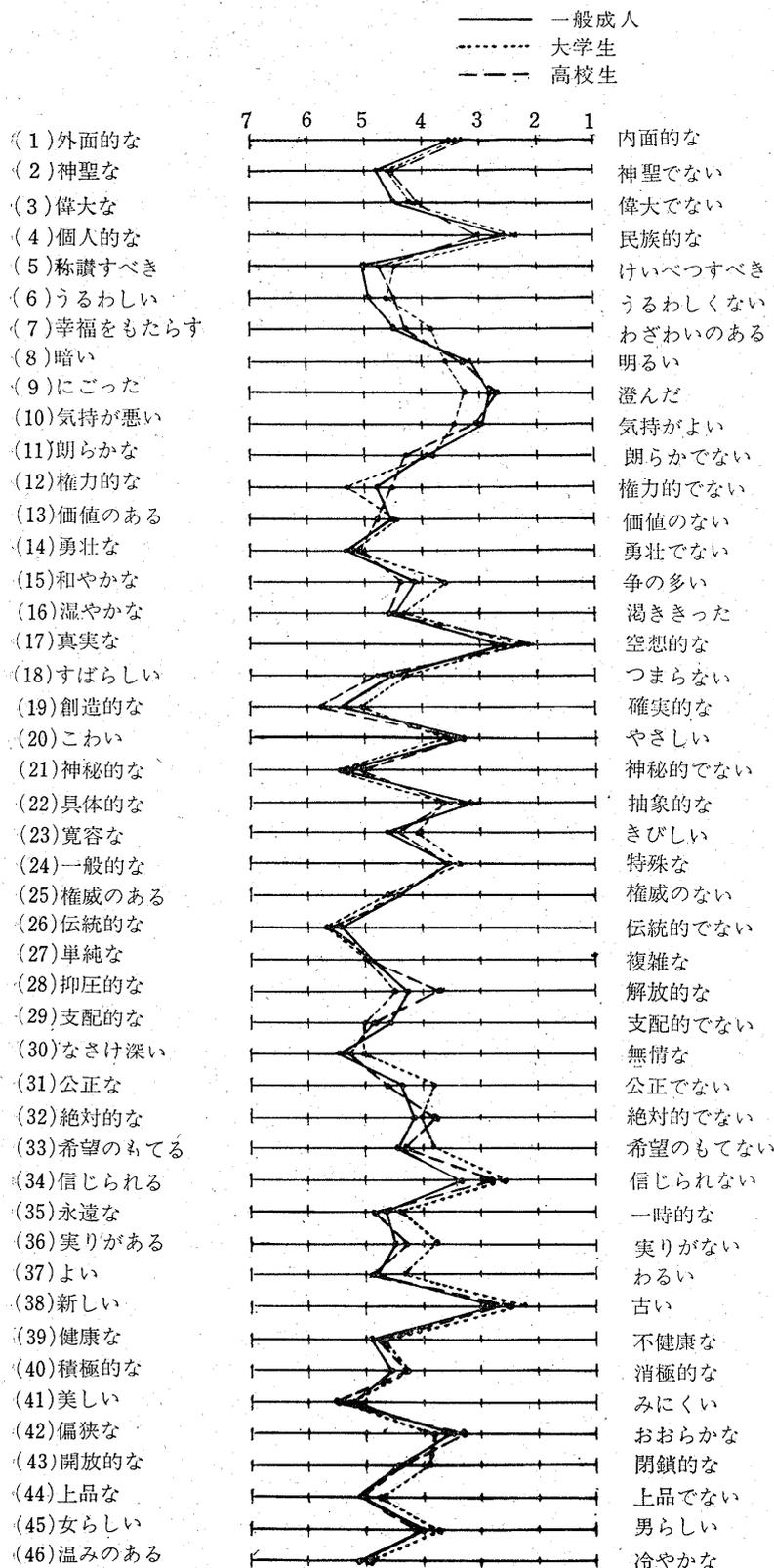


Fig. 1 神話概念のセマンティック・プロフィール

いて適切に記述し説明していると思われる形容語句を抜萃した。これと第1調査の結果とを参考にして、日本神

話について特に relevant に表現すると思われる形容語句を46対選定した。相対応する反対語句は必ずしも国語的な意味に左右されないように配慮した。例えば、(3)偉大な—偉大でない、(4)個人的な—民族的な、(29)支配的な—支配的でない、(32)絶対的な—絶対的でない、などである。

(2) 刺激語 “日本の神話”について用意したSD尺度票の上にそのイメージを7段階で評定させる。その段階は、“どちらともいえない”を中位にして左右に“やや”、“かなり”、“大いに”と配した。

(3) 研究対象 沖縄の那覇市のN高校2年生男女各45名、大学生男女各35名、および40才以上の一般成人(男性のみ)40名で合計200名(いずれも有効回答者数)。一般成人群の年齢構成は、40~49才が24名、50~59才が12名、60才以上が4名であった。

(4) 調査時期 1969年4月~5月。

2. 研究結果

(1) セマンティック・プロフィール

Fig. 1は、高校生全体と大学生全体との46尺度の平均得点と一般成人(男性)の平均得点とによって描いたセマンティック・プロフィールである。このプロフィールによって見ると、全体として各グループはよく類似していることがわかる。しかし、46尺度のそれぞれについて各群間及び性別の差を $\chi^2$ テストにより検定してみると、尺度によって発達差が認められ、その結果をFig. 2にまとめて示しておいた。

これらによって、次のことが見出された。

(i) 高校生と大学生を比較してみると、高校生は日本神話をどちらかといえば、“和やかな”、“よい”と見ているが、大学生は“権力的な”、“抑圧的な”ものと見る傾向が強い。

(ii) 大学生と一般成人とでは、成人の方が日本の神話を“寛容な”、“希望のもてる”、“美しい”という方向で見ている。この傾向では、むしろ高校

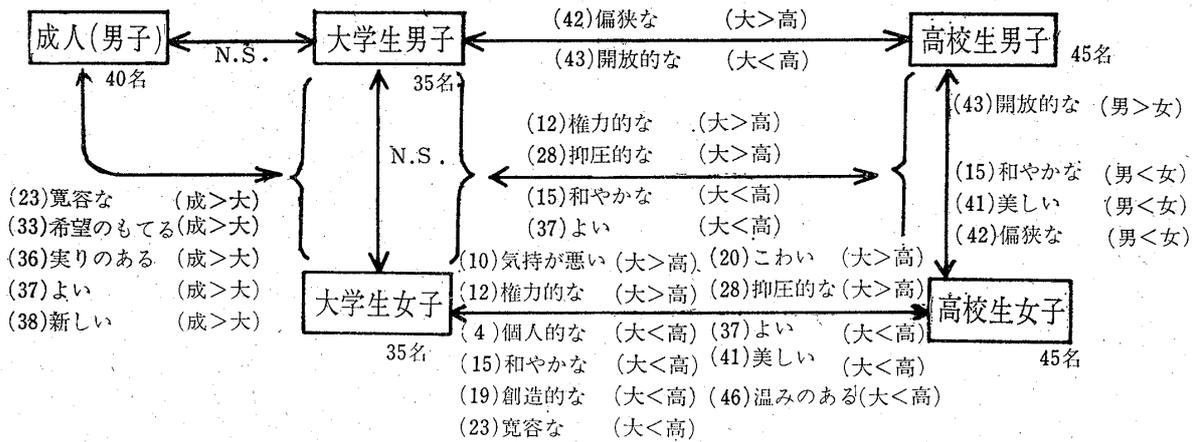


Fig. 2 神話概念に対するイメージの発達差および男女差

生の方が成人に近い。

(1) 男女差を見ると、大学生よりも高校生の方が著しい。高校生の場合、女子の方が男子よりも強く神話を“和やかな”、“美しい”ものと見ている。

(2) 因子構造

被験者の大学生グループと高校生グループのそれぞれを確率変数として、46項目の形容語対間の相互相関を算出し、これに基づいて主因子解による分析をした結果は Table 1 と Table 2 に示す如くである\*。

両グループのデータについてそれぞれ第V因子まで抽出された。大学生グループの共通性の総和は22.678で全分散の92.3%を、高校生グループの共通性の総和21.702で全分散の92.1%を説明する。全体的にみて因子負荷量の高い項目はあまりないにもかかわらず、第I因子では大学生が49.1%、高校生が41.9%、第II因子では前者が14.2%、後者が17.9%負荷している。

第I因子で±0.2以上の負荷量をもつ項目を拾ってみると、大学生では、“うるわしくない”、“わざわざいのある”、“気持が悪い”、“価値のない”、“つまらない”、“わるい”、“不健康な”の7項目であり、高校生で±0.2以上のものは、“称讃すべき”、“幸福をもたらす”、“澄んだ”、“気持がよい”、“すばらしい”、“実りがある”、“よい”、“健康な”の8項目であって、両グループの受けとめ方の方向は相反するが、幸福性の次元と推定されよう。

第II因子で負荷量が±0.2以上の項目は、大学生では“神秘的な”、“きびしい”、“権威のある”、“伝統的な”、“抑圧的な”、“絶対的な”、“偏狭な”、“閉鎖的な”の8項目である。高校生では“偉大な”、“権力的な”、“勇壮な”、“争いの多い”、“こわい”、“権威のある”、“支配的

な”、“絶対的な”、“上品でない”の9項目である。因子負荷量の大きいものを中心にしてこれらをまとめてみると、伝統性の次元といえることができるようである。

第III因子で見ると、大学生では“外面的な”、“個人的な(民族的でない)”、“勇壮な”、“具体的な”、“支配的な”、“積極的な”、“男らしい”の7項目、高校生では“神聖な”、“民族的な”、“暗い”、“朗らかでない”、“神秘的な”、“権威のある”、“伝統的な”、“なさけ深い”、“古い”、“消極的な”、“閉鎖的な”の11項目である。ここでも因子負荷量の大小を考えると、大学生の場合は活動性の次元といえるようだが、高校生の場合は神秘性の次元といった方がよいようである。

第IV因子では大学生が“民族的な”、“具体的な”、“一般的な”、“複雑な”、“公正でない”、“信じられる”、“実りがある”、“新しい”、“上品でない”の9項目、高校生では“勇壮でない”、“真実な”、“具体的な”、“一般的な”、“複雑な”、“抑圧的な”、“偏狭な”の7項目が割合に高い。これらから大学生では複雑性の次元、高校生では真実性の次元と大まかに推定してよかるう。

第V因子では大学生で“権力的でない”、“抽象的な”、“特殊な”、“薄情な”、“信じられる”、“永遠な”、“冷やかな”の7項目、高校生で“称讃すべき”、“暗い”、“権力的でない”、“湿やかな”、“複雑な”、“支配的でない”、“なさけ深い”、“一般的な”、“上品でない”、“女らしい”の10項目が割合に高い。それで両グループをまとめて親近性の次元とすることができるようである。

こうして得られた因子、すなわち幸福性、伝統性、活動性と神秘性、複雑性と真実性、親近性の5因子は、この被験者たちが日本の神話伝説に対して抱いている意味空間の特徴を表わしていると考えられるが、それは前述の第1調査で指摘したように、神話伝説に対する知識の有無や広狭にもかかわらず、このような分析方法の本筋

\* この数値計算は九州大学大型計算機センターの FACOM 230-60 によるものである。

Table 1 神話概念の因子マトリックス (大学生)

	I	II	III	IV	V	$h^2$
1) 外面的な	.112	-.195	.222	.076	-.050	.108
2) 神聖な	-.150	.161	.004	-.078	.195	.093
3) 偉大な	-.177	.124	-.039	.081	.021	.055
4) 個人的な	.005	-.138	.223	-.225	.026	.120
5) 称讃すべき	-.197	.092	-.085	.128	-.151	.094
6) うるわしい	-.209	.044	-.051	-.084	-.001	.055
7) 幸福をもたらす	-.223	.069	.004	.022	-.067	.059
8) 暗い	.159	.169	-.111	.018	.112	.079
9) にごった	.199	.179	-.104	.122	.053	.100
10) 気持が悪い	.231	.033	-.069	.063	.073	.069
11) 朗らかな	-.159	-.198	.098	.095	-.002	.083
12) 権力的な	.115	.075	.138	.112	-.282	.130
13) 価値のある	-.218	.067	-.020	.064	-.001	.057
14) 勇壮な	-.124	.152	.328	.038	-.130	.164
15) 和やかな	-.146	-.093	-.156	-.050	.098	.066
16) 湿やかな	-.095	.042	-.167	.058	-.132	.059
17) 真実な	-.085	-.184	-.184	.077	.182	.114
18) すばらしい	-.234	.010	-.005	-.066	.166	.087
19) 創造的な	-.196	-.019	.103	-.082	-.027	.057
20) こわい	.153	.050	.042	.171	.137	.076
21) 神秘的な	-.124	.224	.137	-.100	.151	.117
22) 具体的な	.017	-.102	.214	.335	-.211	.213
23) 寛容な	-.131	-.228	-.024	-.172	-.020	.100
24) 一般的な	-.023	-.020	-.127	.261	-.300	.175
25) 権威のある	-.115	.322	.067	.000	.134	.139
26) 伝統的な	-.026	.280	-.066	-.043	.028	.086
27) 単純な	.052	-.146	.069	-.345	-.100	.158
28) 抑圧的な	.128	.247	-.036	-.048	-.085	.088
29) 支配的な	.073	.147	.269	-.138	-.043	.120
30) なさけ深い	-.116	.161	.014	-.178	-.353	.196
31) 公正な	-.106	-.024	.125	-.217	.172	.104
32) 絶対的な	-.124	.271	.122	-.016	.104	.115
33) 希望のもてる	-.172	.108	-.060	.149	-.040	.069
34) 信じられる	-.163	-.045	-.040	.238	.282	.166
35) 永遠な	-.108	-.055	-.098	.029	.245	.085
36) 実りがある	-.155	.082	-.124	.293	.038	.133
37) よい	-.227	-.004	-.058	.015	-.028	.056
38) 新しい	-.108	-.072	.153	.226	.120	.106
39) 健康な	-.200	.007	.103	.111	-.175	.094
40) 積極的な	-.068	.002	.408	.160	.070	.202
41) 美しい	-.191	.017	.049	-.176	-.066	.075
42) 偏狭な	.130	.215	.011	-.048	-.051	.068
43) 開放的な	-.121	-.351	.122	.013	.029	.154
44) 上品な	-.166	.046	-.012	-.217	-.165	.104
45) 女らしい	-.037	-.061	-.375	-.171	-.078	.181
46) 温みのある	-.141	-.055	-.188	.051	-.335	.173
固有値	12.055	3.498	2.664	2.510	1.951	22.678
因子分散 (%)	49.1	14.2	10.8	10.2	7.9	92.3

Table 2 神話概念の因子マトリックス (高校生)

	I	II	III	IV	V	$h^2$
1) 外面的な	.050	.101	.071	-.057	-.121	.036
2) 神聖な	.168	.029	.221	-.060	.065	.086
3) 偉大な	.148	.257	.069	.015	-.012	.093
4) 個人的な	-.065	-.033	-.215	.191	-.155	.112
5) 称讃すべき	.205	.164	-.049	-.095	.211	.125
6) うるわしい	.184	-.004	-.091	.001	.128	.059
7) 幸福をもたらす	.201	-.096	.012	.015	-.002	.050
8) 暗い	-.143	.078	.234	.157	.223	.156
9) にごった	-.233	.097	.030	.053	.061	.071
10) 気持が悪い	-.232	.081	.162	.045	-.087	.096
11) 朗らかな	.171	-.021	-.269	-.005	-.035	.103
12) 権力的な	-.005	.207	.056	.001	-.227	.098
13) 価値のある	.175	.103	.006	.137	.175	.091
14) 勇壮な	.100	.300	.074	-.221	-.108	.166
15) 和やかな	.092	-.296	.058	.104	.120	.125
16) 湿やかな	.079	.043	.063	-.191	.309	.144
17) 真実な	.121	.100	-.190	.316	.134	.179
18) すばらしい	.228	.078	-.057	.025	.199	.102
19) 創造的な	.173	-.117	.147	-.022	-.014	.066
20) こわい	.144	.241	.029	.113	-.009	.093
21) 神秘的な	.164	.029	.302	-.106	.151	.153
22) 具体的な	.084	-.004	-.152	.340	-.025	.146
23) 寛容な	-.114	-.170	-.021	-.136	-.010	.061
24) 一般的な	.080	.012	-.090	.260	.027	.083
25) 権威のある	.110	.238	.253	.048	-.029	.136
26) 伝統的な	.113	.112	.287	-.048	.034	.111
27) 単純な	.018	-.172	-.021	-.265	-.219	.149
28) 抑圧的な	-.036	.160	.061	.261	-.052	.101
29) 支配的な	-.038	.271	-.052	.010	-.283	.158
30) なさけ深い	.135	-.146	.243	.042	-.218	.148
31) 公正な	.169	-.055	.110	.145	-.151	.088
32) 絶対的な	.081	.264	.176	.132	-.109	.137
33) 希望のもてる	.163	.113	-.025	-.088	-.129	.064
34) 信じられる	.157	.110	-.036	.148	.137	.079
35) 永遠な	.119	.057	-.002	.074	-.252	.086
36) 実りがある	.215	.149	-.097	.009	-.038	.079
37) よい	.246	.055	-.016	.007	.124	.079
38) 新しい	-.016	.077	-.271	.157	.103	.115
39) 健康な	.217	-.056	-.069	.076	-.182	.094
40) 積極的な	.077	.185	-.291	-.198	-.112	.177
41) 美しい	.194	-.178	.070	.193	-.149	.134
42) 偏狭な	-.108	-.041	.162	.330	.025	.149
43) 開放的な	.170	.038	-.215	-.154	-.026	.101
44) 上品な	.152	-.213	.108	.128	-.248	.158
45) 女らしい	.037	-.113	.026	.003	.226	.066
46) 温みのある	.184	-.175	.101	.042	-.072	.082
固有値	9.866	4.208	2.808	2.518	2.302	21.702
因子分散 (%)	41.9	17.9	11.9	10.7	9.8	92.1

からして広く妥当するものと思われる。なお各因子を通して大学生は高校生と比較して一般に、日本神話について拒否的な方向への受けとめ方をしているのが注目される。

上述の第I因子と第II因子の中で、大学生グループまたは高校生グループのどちらかで因子負荷量が±0.2以上の項目を取り上げ、大学生のα<sub>1</sub>軸(第I因子)の正負を反転して、両グループの結果を重ねてみると、Fig. 3のようになる。これらの25項目のうちで、“開放的な、上品な、伝統的な、偏狭な”の4項目ではズレが著しく、次いで“こわい、神秘的な、幸福をもたらす、和やかな、健康な、権力的な”の6項目も幾らかズレているが、その他の項目では割合に類似しているといえる。ここで取り上げなかった残りの21項目は、大学

生および高校生で第I因子でも第II因子でも、負荷量が±0.2以下であるから、特別な場合を除いてさほど大きな懸隔はないであろうと推測して、ここでは処理した。

考 察

本研究で見出されたことは、日本の神話伝説には和辻哲郎その他が論究しているように、古代人の生活様式や世界観、国民的統一、祭祀に基づく道徳実践、神の意義などにきわめて高邁深淵な思想と哲学が包蔵されているというのが通念であるが、現代の青年たちはこのような意味の広さと深さに気付いていないということである。どこの国でも、自分が生まれ育ってきた国の歴史や神話伝説についてある程度の知識をもち、温かい情操を抱くのは国民として当然のことと思われるが、現代の青少年

は今までにそのような機会が与えられなかったのでこのような結果になったことは止むを得ないことといわねばならないだろう。これは神話に限られることではなく、民話、古諺、童話その他の民族的伝承にも共通するものと思われる。心理学的な研究がこの方面に向けられた前例は皆無ではないが、きわめて稀である。ここで思い出されるのは、日下部重太郎による“桃太郎”、“浦島”、“猿カニ合戦”、“舌切雀”、“花咲爺”の研究(1928; 1929)と、徳田安俊・菊池章夫の“ことわざ”の研究(1969)である。

被験者が今までに余り読んだことも聞いたこともない神話伝説についてこのような研究をすることについて異論を唱える向きもあろうが、最近の心理学者たちが注目しつつある“イメージ”、“印象形成”、“意味空間または意味範疇の広さ”などの問題は、被験者がその概念を十分に認知していないからこそ研究テーマになり得るのである。

方法論的な面から考察するならば、“神話”という1つのconcept だけに対して多数の被

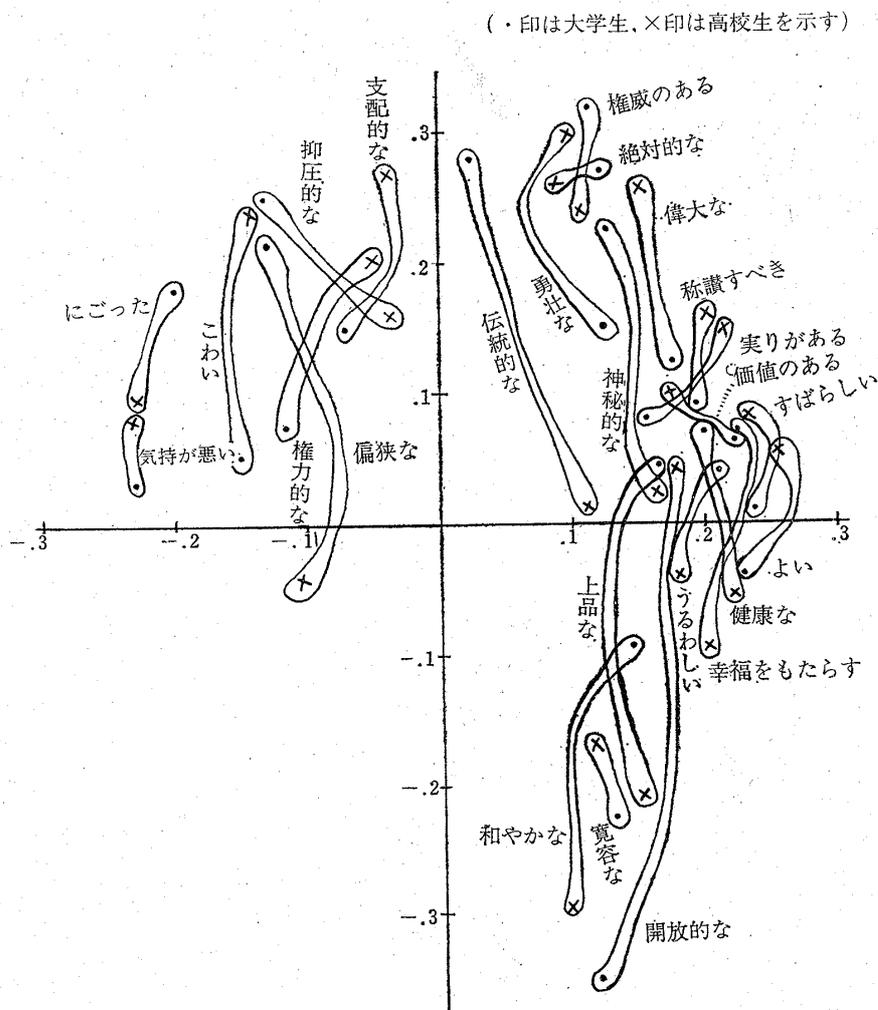


Fig. 3 神話概念の因子分析

験者の反応を求めて、個人×scaleの分析をすることも可能であるが、さらにもう少しconceptの数を増すことも適当であろう。すなわち神話伝説と並立する概念として、例えば、(1)国文学上のジャンル(和歌、俳句、物語、近代小説など)、(2)個々の神話(天地創造、国土形成、黄泉の国など)、(3)読んだり聞いたりしたことのあるギリシャ神話、北欧神話、中国神話などのイメージとの比較などを考慮に入れることも意味があることと思われる。芳賀純(1963)や飯島婦佐子(1968)は、1つ1つの童話を聞かせてそれに対する反応を分析しているが、この方法による神話の研究も可能である。

また神話伝説についての意味づけ、またはイメージを規定する要因(生活経験、学習量、個人差など)をも研究する必要があるが、ここでは青少年と一般成人とを比較して、その意味づけやイメージの根底に潜む規定要因の差が暗示されたに過ぎない。神話伝説のinformation sourceの問題としては、informationの内容に関するsourceと、それに対する価値判断のsourceとの2つであろう。おそらく小さい子どもならば前者だけが問題になり、後者の点では親や教師から聞かされることに制約されるであろうが、高校生や大学生の段階では読書量の広さ、思考し玩味する能力、仲間その他からの影響などの差が大きいことが推察される。

最後に、神話伝説研究の心理学的な問題について付言しておこう。現代人が如何に科学や合理性を強調しようと、それらは現代人の生活および機能の一面に過ぎず、現代人たるわれわれが何らかの決断や行動に出ようとする時、われわれを心底から揺り動かし、その情熱をかりたてるものは依然として未開人や原始人と共通する倫理的情操であると思われる。未開人にとって神話や伝説がどんな意味をもち、どんな機能を果たしていたかを探究することは、とりもなおさず現代人の意識や思考の解明に新たな光を投げかけてくれることになると考えられる。このような意味で、神話伝説について研究することの重要さが感じられるのである。

現代の日本では急速な近代化が進みつつあり、新奇な“未来”を指向する傾向が強いけれども、一方では文化財保護の気運も高く、一般国民はそれを熱望している。文化財といっても形象あるものだけでなく、神話伝説のような精神的文化遺産についても親しみと愛着をもち続けるように努める必要があろう。明治時代と類似したような文明開化の大きな波に押されて、わが国古来の精神的伝承を顧みることの少ない現代になされたこの研究は、“古い酒を新しい器で味わう”式の一手法のもつ方法的理念を含めて、現代および後世の人々にとって貴重

な参考資料となるであろうところに、本研究のもつ意義を筆者は考えている。

## 要 約

1. 日本の神話伝説については、従来、文献学、倫理思想史、神話学の立場から論究されてきたし、最近では文化人類学の立場から研究されつつあるが、心理学的立場からの研究はきわめて少ない。

2. 日本の神話伝説についての意味づけ、受けとめ方を心理学的に研究するとしても、具体的にはどんな側面をどんな方法で行なうかについて、まだ十分に論議されていない。本研究では、一般的な日本神話の概念を自由記述式の質問紙法、Semantic Differential法、因子分析法によってデータを収集し分析した。

3. 自由記述式質問紙法によると、現代の小中学生は神話物語についての知識が貧弱であり、それに対する感動性も弱い。神話物語を現実性や合理性の立場から受け取ろうとする傾向があり、男子よりも女子の方はその物語を読もうとする関心が高いようである。

4. 日本の神話伝説についてrelevantに表現すると思われる形容語句を46対選定し、この尺度上にそのイメージを7段階で、高校生、大学生、一般成人に評定させた。その結果に基づいてセマンティック・プロフィールを描いてみると、一般に大学生は日本の神話を否定的な方向に受けとり、高校生と一般成人は肯定的な方向に受けとっている。男女の差では大学生よりも高校生の方が著しいことがわかった。

5. 大学生グループと高校生グループの形容語対に対する回答データについて因子分析してみると、

第I因子 幸福性

第II因子 伝統性

第III因子 活動性と神秘性

第IV因子 複雑性と真実性

第V因子 親近性

の5因子が算出された。

6. 日本の神話伝説についての心理学的な研究の意義および研究方法論について考察を加えた。日本の精神的文化遺産として神話に親しみと愛情をもち続けることが、日本人らしい倫理的情操につながることであろうと思われる。

<付記> この論文の整理に当たって、立教大学の沢田慶輔教授、中央大学の吉田正昭教授と学習院大学の詫摩武俊教授から貴重なご意見と助言をいただいた。ここに付記して謝意を表する。

## 文 献

- 秋本吉郎 1958 風土記 日本古典文学大系 岩波書店  
 文沢義永 1969 心理学的にみた権威の概念 教心研,  
 17—3  
 文沢義永・吉田正昭 1970 現代日本人の礼儀意識の構  
 造 心研, 41  
 原田大六 1966 実在した神話 学生社  
 芳賀純・ほか 1963 児童の反応に基く童話の鑑賞過程  
 の一分析 関西放送教育研究協議会, 放送教育研究  
 紀要, II  
 平泉 澄 1970 少年日本史 時事通信社  
 平田俊春 1967 日本の建国と二月十一日 甲陽書房  
 肥後和男 1938 古代伝承研究 河出書房  
 肥後和男 1938 日本神話研究 河出書房  
 肥後和男 1966 神話時代 至文堂  
 肥後和男 1968 日本の神話 雪華社  
 飯島婦佐子 1968 童話作品に対するイメージの分析  
 教心第10回総会発表論文集  
 井上光貞 1960 日本国家の起源 岩波新書  
 井上光貞 1965 「神話から歴史へ」日本の歴史I, 日  
 本公論社  
 加藤仁平 1928 三種神器を象徴としたる近世国民思想  
 の発達(1—完) 教育心理研究, 3  
 風巻景次郎(編) 1958 古事記大成, 第5巻, 神話民俗  
 篇, 平凡社  
 日下部重太郎 1928 a 日本童話の大王「桃太郎」の研  
 究, 教育心理研究, 3  
 日下部重太郎 1928 b 日本の世界的伝説「浦島」の研  
 究, 教育心理研究, 3  
 日下部重太郎 1928 c 敵討の代表的童話「猿カニ合戦」  
 教育心理研究, 3  
 日下部重太郎 1929 因果応報の童話「舌切雀」と「花  
 咲爺」教育心理研究, 4  
 黒板勝美(編) 1943 訓読日本書紀 岩波書店  
 松前 健 1960 日本神話の新研究——日本文化系統論  
 序説, 桜楓社  
 松本信広 1936 日本神話の研究 鎌倉書房  
 松本信広 1956 日本の神話 至文堂  
 松村武雄 1954 日本神話の研究, 第一巻, 序説篇, 培  
 風館  
 水野 祐 1960 日本民族の源流 雄山閣  
 望月登志子・近江恵子・田椽淑子 1967 日本人の恥意  
 識, 人間研究, 4  
 森田康之助 1965 上代の日本人 日本教文社  
 中村徳五郎 1934 日本神代史 成光館  
 中作泰子・芳賀 純 1963 Semantic Differential 法  
 による童話中の主要人物の意味把握の変化の測定に  
 関する研究 計量国語学 25  
 西村真次 1927 神話学概論 早稲田大学出版部  
 岡 正雄 1965 日本民族文化の形成, 図説日本文化大  
 系, 小学館  
 岡田芳朗・ほか 1968 日本古代史の諸問題 福村出版  
 大西貞治 1931 古代日本精神文化の研究 至文堂  
 西郷信綱 1967 古事記の世界 岩波新書  
 坂本太郎 1964 日本古代史の基礎的研究・上(文献編)  
 東大出版会  
 坂本太郎 1968 神話と歴史教育 初等教育資料 233  
 沢田慶輔・ほか 1966 人間愛の発達についての研究  
 (I) 教心第8回総会発表論文集  
 沢田慶輔・ほか 1967 人間愛の発達についての研究  
 (II) 教心第9回総会発表論文集  
 沢田慶輔・ほか 1967 道徳性の心理学的研究の動向  
 教育心理学年報, 7集  
 沢田慶輔・ほか 1969 人間愛の発達についての研究  
 (III) 教心第11回総会発表論文集  
 高木敏雄 1925 日本神話伝説の研究 図書院  
 高橋早苗・山口康助 1968 神話・伝承をどう教えるか  
 明治図書  
 津田左右吉 1916 文学に現われたる我が国民思想の研  
 究——貴族文学の時代 岩波書店  
 津田左右吉 1923 神代史の研究 岩波書店  
 津田左右吉 1948 日本古典の研究・上 岩波書店  
 徳田安俊・菊池章夫 1969 「ことわざ」による価値観の  
 研究 福島大学教育学部紀要, 20—3  
 上田正昭 1967 日本神話の世界 創元社  
 上田正昭 1970 日本神話 岩波書店  
 和辻哲郎 1951 新講・日本古代文化 岩波書店  
 和辻哲郎 1952 神話伝説に現われたる倫理思想, 日本  
 倫理思想史, 上巻第一篇, 岩波書店  
 吉田正昭・森山美那子・玉井ちづ子 1962 日本人の権  
 威意識の構造, 心研, 32  
 吉田正昭・藤井和子・栗田淳子 1966 日本人の恩意識  
 の構造, I, II, 心研, 37  
 吉田正昭・飯吉祥代・小池 都 1969 日本人の義理意  
 識の構造, 心評, 12  
 (1971年1月16日原稿受付)

## ABSTRACT

## PSYCHOLOGICAL ANALYSIS OF MEANINGNESS OF JAPANESE MYTHS

—On Okinawan People, by Semantic Differential Method—

by

Yoshinaga Fumizawa

*University of the Ryukyus*

1. The studies of Japanese myths have been carried out from the standpoints of philology or hermeneutics, history of ethical thoughts, and mythology and also recently from that of cultural anthropology. But the study has been scarcely found in the field of psychological research. Those past studies have briefly introduced here.

2. In case of preceding psychological research on the meaningness and cognition about the Japanese myths, difficult problems are the facets and methods to take in concretely. Those problems have never been discussed sufficiently in Japan. This present study tried to collect data and consider about the general concept of Japanese myths as a whole through a free-answer questionnaire, the Semantic Differential technique, and a factor analysis method.

3. According to the free-answer questionnaire, present-day Okinawan pupils of elementary schools and junior high schools have not much knowledge of or affection toward Japanese myths. They have a tendency to accept the myths from some realistic and rationalistic thinking. Girls more than boys have an interest in reading the literature on the myths.

4. 46 pairs of adjectives which were seemed relevant to the concept of Japanese myths were

selected based on the statements of many literatures and the preliminary study. Senior high school and university students and male adults more than 40 years old were instructed to rate their images toward the myths on the seven-point scales. The semantic profiles thus obtained showed that university students opted to accept the Japanese myths on the line of negative direction, but high school students and male adults on the positive direction. Sex differences on the semantic profiles were larger at high school students than university students.

5. The factor analysis of the obtained data by the Semantic Differential method from high school group and university group yielded 5 dimensions of factors contained, as follows:

- I. Happiness
- II. Traditionality
- III. Activity and Magisticity
- IV. Complexity and Realisticity
- V. Familiarity

6. Significance of psychological research and its methodology on the myths were here considered. To hold and keep familiarization and affection toward the myths as Japanese spiritual cultural inheritance might be considered to have a connection to accepting the ethical sentiments of Japanese nation.